

社共のセクト主義的対立をあらわにし瓦解する既成平和運動をのりこえ

京大がら10・21反戦・反安保の特集

「三里塚「十四晩起」なるものを叫びたてた権力の走狗
すべへの反戦諸君！」

10・21国際反戦デーを目前にして、極東における米・ソの軍事的衝突が増して激化している。戒厳令や戒厳令体制をもって、韓国軍事ボナバルチズム政権が、ついに頭目・金斗煥を手厚く迎えて入った由来根政権が、「成熟した新次元の日韓関係を謳う」あげつ現に今、対ソ連露の米日韓三国軍事同盟を強化するための諸攻撃を実行中、学生の頭上に一矢回すばかりではないのだからだ。

だが、オバマーの時、今更の原水禁運動の最後をつゝりだした社会党・共産党指導部は、このや反戦の町の創造を完全に放棄している。いや、社・共既成左翼は歴史が古く反戦者の統一行動である10・21反戦をめぐらしても分断し破壊しようとばかりである。

すべての反戦諸君、既成平和運動の瓦解を根底からつぶされ破していくのが今は既成左翼の宿命な。わが京大学生運動場裡では、ルハーフロ部隊を導入してしまったが、中核派が、三里塚「十四晩起」なる叫びで一切を解消し、もつて革命的反戦闘争の破壊に狂奔している。しかし田核派の敵対を許さず、「なぜ、京大がら10・21反戦・反安保国等の高揚をなんひかべりに奮闘せよ」といつぞやいか。

「非核・非同盟」政策への 転換要求運動をのりこえてたたかおう



「日韓反共同盟」の誇示に弾劾のシュプレヒコール（芝公園23号地）9・6

＜連絡先＞
大阪市東淀川区
豊新5-6-5
06-XXXX-XXXX
嵯峨城

学生会議

10/21 国際反戦デー 労学大闘争
於 東京 清水谷公園

田井＝民青系は、10・21
むかし、「日本の核戦場
化」を題材にした「米
日韓軍事同盟化を糾撲」し
「安保廢棄の旗を高く掲げ
「非同盟・中立の日本
」を実現することを強調し
てこい。

だが田井＝民青系の展開
する「米日韓軍事同盟化糾
撲」の「旗」は、それ
は「安保の危険性を警告す
る」運動のことしかない
のだ。（カクヘイカク）

レシードーの御遺言を以つてシドニーにて「安保改築」の運動は、中曾根政権に「非核日本宣言」を要求するなど、「非核・非同盟」政策への転換を運動しながら、中曾根政権が全三競との首脳会談をつづじて日韓の反共軍事同盟を表示し、米日韓三国軍事同盟の強化を図りあげつつ、一舉にアジア版NATOづくりに攻進していくところ、その中で、攻撃に反撃する大衆的防衛を創造するのでなく、その中

普段は「非核政策を実現する」ことを「後回頭の問題」といふ。これは、田中角栄は田中角栄回頭を以て、改めて回頭しないのか。いは、田中角栄は田中角栄回頭を以て、改めて回頭しない

核軍事力の絶対優位を確保するためであつて、それ以外で
はない。しかも、この「平和政策」はアーヴィングによつて示
されたような「革命的輸出」たゞがためにソ連圏の地理的拡
大、そのうえに帝國主義の手段としても位置づけられたものである。わざと帝國主義の軍事力
増強をアーレクサンダーの国際結婚によってハム戦争
によつて断ち切つて、かつ展望をかなべてくれたもの
でしかない。田井＝民青系は、日本の平和運動を一貫して
ノルマジの「権力政治」の論理の前にひきつけようとい

（）いや、田井＝民青系は、「レーベン」の軍事化に対する
20の増強配備をはじめとする機動・連携の大増強を痛烈す
る匂いをけっして削除しないでござなさい。「レーベン」の限
定核戦争構想が「さういふ」ないために「安保米約の廢棄
」を出資根に迫る一ことに終りあがるのだ。そして、この中
曾根たゞする「非核政策への転換」要求の現実性を、な
んとソ連蘇聯の「平和政策」に依拠するかによって基礎
づかぬことやしないでござなさい。

米ノ核軍事力増強競争反対の旗を高く掲げてたかおう！

りにも絶念的ではなれか。しかも、彼は「一安保慶業」課題と「非核日本」を実現する手段へと結していける。これでは米・ソの核軍事力増強競争が激化するにかぎり、連スター・リノ主義に対抗する帝国主義的階級同盟たる日本軍事同盟を対ソ攻守同盟として確実的に強化せんとしている。日本両権力者の階級的野望をうち碎く力を創造できないばかりか、それを解体することにしかならぬ。

シナリオスクリプトしたが、これが事実である。この戦闘は、主導権を握ったのは日本軍である。ヤベーの語調で、田井＝民吉系による歪曲を許さず、「ハマホーカ配備阻止」の「20増配備弾劾」を掲げ、さうして論じて、米田幹川海軍参謀の想いに反対し、ハマホーカ配備を実体的に支えないハマの在日米軍へのエスカレート配備への口上配備、自衛隊の大規模な反撃や介入も、安保

中核派の敵対を粉碎し 10・21首都へ決起しよう！

20の複数設備とはシナリオの機動・運用の大増強を確約する間に、それを「創造」としてしなじ。「一軒の限定核戦争構想」を「ないだら」「好ましい約束」の発表を中止するに至る。しかし、この中止をめぐらす交渉のつぶやく。そして、この中止に対する「非核政策への轉換」「要求の現実性を、なにひとつも棄てぬつて平和政策」に依拠するに至つて基礎づかむことになるのだ。

いつたじ、「トマホーク配備」によつて日本は核攻撃の対象となる」と、ウクレミリン、官僚の核恫喝を本因に付しながら「日米安保を廢棄してこそやすらぎ……」などと語るといふ反対側者的な一面があるだうつか。ウクレミリン官僚が、「平和政策」を採用するのではなく、帝国主義諸国に対する